

おおさき

広報
PUBLIC RELATIONS

2006. 11
No. 8

平成18年11月1日発行
[毎月1日発行]



おもな内容

- 「しつけ」と「虐待」は違います… ②
～児童虐待防止推進月間～
- 短期財政の見通しについて… ④
- 障害者自立支援法の施行に伴う市の独自軽減策… ⑥
- 市民健康調査… ⑦
- 秋の火災予防週間、クマ出没注意… ⑧
- 岩出山バルーンフェスティバル、飛翔会議… ⑨
- まちの話題… ⑩
- 自慢の逸品・情熱大崎… ⑫
- 生涯学習… ⑭～
- お知らせ… ⑯～
- 健康・子育て… ⑳～

おおさき 探訪

vol.8 鹿島台
kashimadai

表紙の写真・

夕暮れの鳴瀬川木間塚大橋
「水の面」像と夕日

おおさき 探訪

vol.8 鹿島台
kashimadai



わらじ村長が生みの親 東北一の鹿島台互市に 出かけてみよう！！

11月10日から12日までの3日間、恒例の「鹿島台互市」が開催されます。250以上の露店が、所狭しと軒を連ね、市内外からの大勢のお客さんで大変にぎわいます。

この互市の生みの親は「わらじ村長」の愛称で親しまれた鎌田三之助翁。明治43年から、村民の娯楽、農産物販売による福利、農作物の種や苗、農機具など農作業の準備のため、春と秋の年2回開催されるようになり、今年で96年の歴史を誇る、東北一の規模の互市に成長しました。



鹿島台互市

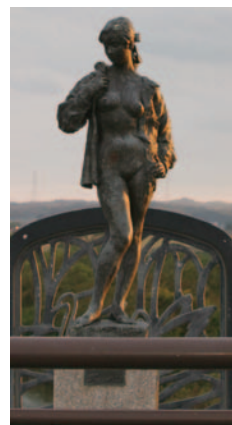
毎年、春と秋に開催される鹿島台の互市。その規模は東北一を誇ります。お目当ての品を求めて、また、ゆったりと散策するのもいいですね。



長」と呼ぶようになったそうです。

三之助翁は、品井沼干拓に人生の多くを捧げた人でもありました。ひとたび長雨が降ると、大洪水となる品井沼の水を、松島湾へと排水するための「明治潜穴」工事の陣頭指揮をとり、現在の美田広がる鹿島台の礎を築いたのです。

三之助翁は、村長を務めた38年間、常に節約を生活信条とし、村民の模範となるべく、破れた帽子につぎはぎだらけの衣服、そしてわらじ履きのスタイルを終始貫きました。給料も一切受け取らず、ひたすら村の立て直しに奔走する姿を見続けた村民は、敬愛の念を込め「わらじ村



鹿島台の歴史は、水との戦いの歴史と言っても過言ではありません。品井沼の一大干拓事業、昭和23年のアイオン台風、昭和25年のキティ台風、昭和61年の「8.5豪雨」による大水害など。それでも人々は水との戦いに屈せず今日の鹿島台を築いてきました。

表紙の写真は、鳴瀬川にかかる木間塚大橋に設置された「水の面」像です。水との壮絶な戦いを克服し、緑豊かで、安らぎあふれる、うるおいある生活を手に入れた鹿島台の姿を、今日も橋の上からやさしく見守っています。